

# 令和5年度 西東京市立学校 学校経営計画

学校名	西東京市立上向台小学校	校長名	酒見 裕子
-----	-------------	-----	-------

## 教育理念及び教育目標

互いの人格を尊重し、自主性と創造性に富み、これからの社会をたくましく生き抜くための資質・能力を身に付けさせ、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

「人にやさしさ 自分につよさ 生き抜くかしこさ」

## 学校の特徴

- **教育目標の具現化のために知徳体の調和のとれた教育活動を実施する学校**
  - ・ 大規模ならではの特色を生かし、児童と児童、児童と教師、児童と地域の方といった「人」とのかかわりを大切にする。「やさしさ」【徳】
  - ・ 児童が、健康・安全に興味・関心をもち、自ら設定したためあてに向かって主体的・継続的に実践できる教育活動を推進する。「つよさ」【体】
  - ・ 基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせるとともに、問題解決的な学習の中で、学び合う活動を重視し、主体的に学ぶ姿勢の身に付けさせる。「かしこさ」【知】
- **人や地域社会との「かかわり」や「つながり」を大切にする学校**
  - ・ 近隣には都立小金井公園、学校の目の前には多摩湖遊歩道、また学区域には、農園等も見られ、「豊かな自然」とのかかわりを生かす。
  - ・ 6年生を「上小で目指す児童像」と定め、「上小フレンドパーク」等の異学年交流班（フレンド班）活動の充実により、全学年の「つながり」を強化する。
  - ・ 近隣の幼稚園等との連携を強化し、幼児期に身に付けたことを、小学校において生かした指導をする。（上小スタートカリキュラムの実施）

## 目指す学校像（学校像、児童・生徒像、教師像）

### 【学校像】

- ①一人一人の子どもを主語にする学校
- ②学ぶワクワク感のある学校
- ③健康・安全に努める学校
- ④子ども、保護者、地域、教職員が連携・協働してともにつくる学校
- ⑤教職員が、安心して本務に力を注げ、協働できる学校

### 【児童像】

- ①人や社会との「かかわり」や「つながり」を大切にする思いやりのある児童
- ②自ら心や体を鍛え、最後までやり抜く力を備えた児童
- ③自ら課題を見付け、解決に向け、学び続ける児童

### 【教師像】

- ①一人一人の児童のよさや可能性を見出す教師
- ②主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たす教師
- ③学校をつくる組織の一人として協働できる教師
- ④保護者や地域に信頼される教師

## 学校経営の目標

### 1 中期経営目標

- ① これからの社会を生き抜く児童に対して、学習指導要領の内容を踏まえ、確かな学力、生活の基盤となる体力を確実に身に付けさせる。⇒「**学力・体力をつける学校**」
- ② 児童が安全に、安心して通うことができ、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。⇒「**安全・安心な学校**」
- ③ 人や社会、自然などのかかわりとつながりを大切にした豊かなコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。⇒「**かかわりを大事にした学校**」
- ④ 地域とともにある学校を目指して、地域社会と連携を深め、地域に愛される学校づくりをする。⇒「**地域とともにある学校**」
- ⑤ 勤務時間管理と勤務時間・健康管理を意識した働き方を推進する。⇒「**業務改善・働き方改革**」

### 2 短期経営目標

- ① 「学力・体力をつける学校」⇒「令和の日本型学校教育 上向台小 Ver.」の推進により、一人一人の学力・体力を向上
- ② 「安全・安心な学校」⇒未然防止を前提とした「いじめ」対応の実施といじめ解消率 100%
- ③ 「かかわりを大事にした学校」⇒年間を通じた「かかわり」を重視した教育活動の充実
- ④ 「地域とともにある学校」⇒カリキュラム・マネジメントの視点から「ひと・もの・こと」の有効活用
- ⑤ 「業務改善・働き方改革」⇒業務内容の精選及び組織的・効率的な業務の遂行と勤務時間の管理

## 具体的方策

(短期経営目標を達成するための学校の具体的な取組)

### ①「学力・体力を付ける学校」の取組

- ・ 児童自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業に挑戦し、児童が「見通し」をもって課題解決に向けて取り組むことができるようにする。
- ・ 様々な他者との共有や協働的な活動を通して、比較・関連付けたり、多角的・多面的に考えたりできるようにする。
- ・ 西東京市GIGAスクール構想基本方針の下、児童自身が学び、考え、表現、発信するための道具として一人1台タブレット端末を活用する。
- ・ 「西東京あったか先生」を踏まえた「わかる授業」、「ほめる授業」を実現するとともに、児童の主体的な学びを支援する伴走者としての教師への転換を図る。

### ②「安全・安心な学校」の取組

- ・ 言葉に対する意識を高めながら言語環境を整備するとともに、「ほめる」、「話を聞いてねいに聞き、受けとめる」ことにより、人権教育の充実を図る。
- ・ 「いじめはどんな環境でも発生するものである」という認識に立ち、いじめ防止に向けた取組を推進する。
- ・ 校内委員会を中心に、合理的配慮に基づいた児童一人一人の特性に応じた支援の充実を図る。

### ③「かかわりを大事にした学校」の取組

- ・ 学年での挨拶運動や、日頃の挨拶の指導を全教職員の共通理解の下、確実に行う。
- ・ 異学年交流班(フレンド班)を編成し、年間を通じ学年を超えた交流活動を行う。

### ④「地域とともにある学校」の取組

- ・ カリキュラム・マネジメントの視点から、地域の人・もの・ことを効果的に活用した単元や授業を構想し、展開する。
- ・ 情報発信を積極的に行い、保護者が通信機器を通して学校の様子を理解できるようにする。

### ⑤「業務改善・働き方改革」の取組

- ・ 年2回の調査期間を設定し、週の在校時間が53時間を超えないようにする。